

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 二島 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

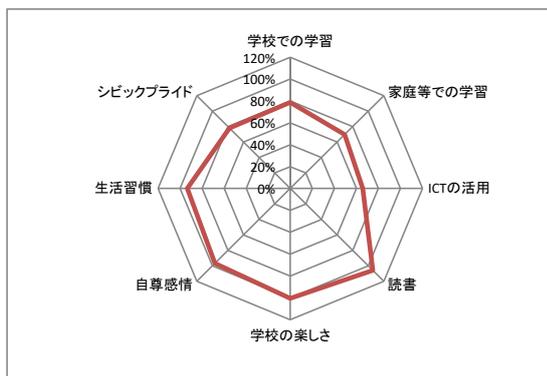
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○記述式や漢字の問題で無解答が多くみられる。 ○問題を最後まで読まずに解答をしたり、文章を読み取れていない解答が多く見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や場面に応じて、インタビューの質問内容を考えることができる。	
	努力が必要な問題	説明文を最後まで読み、内容を理解する。	
数学	全体的な傾向や特徴など	○説明や証明の問題で無解答が多くみられる。 ○概念や基礎・基本、計算の順序など、1年次の既習内容が身につけていない可能性が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	箱ひげ図など、2年生の3学期に学習した内容がよくできている。	
	努力が必要な問題	1年次の学習内容、基礎基本を正しく理解する。	
英語	全体的な傾向や特徴など	○記述式の問題に無解答が多くみられる。 ○解答が間違っているものの中でも、条件を満たせずに間違いになっているものも多かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	情報を正確に聞き取ることができる。	
	努力が必要な問題	長文をよく読み、何を問われているのか考えて解く。単語の修得。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>◎心の育ちに関わる問いは、肯定的な回答が非常に多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は楽しいですか」の問いに対して、86%が肯定的に回答している。 ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」の問いに対して、95%の生徒が肯定的な回答をしている。 <p>◎学習活動に関わる問いは、基礎基本の定着と家庭学習について課題が大きい。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

(国語) 言葉の力・書く力を高めるために、学校通信や生徒指導通信の感想を書くことも取り組みのひとつとする等、文字にふれる機会を設ける。
(数学) 授業の最初に1年次の計算の復習をする時間を取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎早寝・早起き・朝ごはん等、規則正しい生活を心掛けるよう、学校と家庭が継続・連携して取り組む。
・授業の復習を時間を決めて行う。家庭学習の習慣化(中1:70分、中2:80分、中3:90分を目標)
・基礎学力を定着させる。(計算、読書)